

ルーマニア

Romania

		2012年	2013年	2014年
①人口：2,230万人（2014年）	④実質GDP成長率（%）	0.6	3.4	2.8
②面積：23万8,391km ²	⑤消費者物価上昇率（%）	3.3	4.0	1.1
③1人当たりGDP：1万35米ドル (2014年)	⑥失業率（%）	6.8	7.1	6.8
	⑦貿易収支（100万ユーロ）	△8,932	△5,443	△5,387
	⑧経常収支（100万ユーロ）	△6,052	△1,169	△648
	⑨外貨準備高（100万米ドル）	41,162	44,811	39,165
	⑩对外債務残高（グロス） (100万ユーロ)	79,936	78,860	75,725
	⑪為替レート（1米ドルにつき、 レイ、期中平均）	3.4682	3.3279	3.3492

〔注〕⑦：国際収支ベース（財のみ）

〔出所〕①②④～⑥：ルーマニア国家統計局、③⑨⑩：IMF、⑦⑧⑩：ルーマニア中央銀行

ルーマニアの2014年の経済は2.8%成長と4年連続のプラス成長となった。輸出は輸送用機器を中心に、輸入は金属を中心に、それぞれ5.9%増となり、金額ベースでもともに好調だった。対内直接投資は14.7%減の24億9,500万ユーロで、減少に転じた。対日貿易は、22年ぶりに貿易黒字となった前年から再び赤字に転じた。輸入増が主因。日系製造業は進出済み企業による投資拡大が目立った。

■前年同様、輸出が貢献してプラス成長

2014年の実質GDP成長率は2.8%だった。2013年の伸び率3.4%には届かなかったものの、4年連続でプラス成長となった。GDPを需要項目別にみると、2013年同様、財貨・サービスの輸出がプラス成長に大きく貢献した。民間最終消費支出は3.7%と、前年比減だった2013年から増加に転じた。一方で、国内総固定資本形成は3.5%減と、2013年に引き続き減少となり経済成長を押し下げた。GDP成長の牽引役となったのは、工業（3.6%増）と情報通信（8.2%増）。農業は、前年比1.5%増とプラスを維持した。2013年に続いて豊作だったことによる。

2015年第1四半期（1～3月）の実質GDPは、前年同期比では、4.3%増だったが、年間ベースでは、政府は2015年の実質GDP成長率を3.2%としている。ウクライナ危機、ロシア経済制裁やギリシャ支援問題など周辺地域における先行き不透明感からの影響を見込んでのことだ。

表1 ルーマニアの需要項目別実質GDP成長率

	2013年	2014年	2014年			
			Q1	Q2	Q3	Q4
実質GDP成長率	3.4	2.8	4.1	1.5	3.0	2.7
民間最終消費支出	△1.2	3.7	5.1	2.6	2.8	3.8
政府最終消費支出	13.6	13.7	△5.3	20.8	21.9	17.2
国内総固定資本形成	△7.9	△3.5	△8.1	△12.3	△2.1	1.4
財貨・サービスの輸出	16.2	8.1	15.2	7.3	1.6	3.7
財貨・サービスの輸入	4.2	7.7	12.9	4.8	1.5	5.9

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比かつ季節調整値。

〔出所〕ルーマニア国家統計局

■自動車部品などの増加で、輸出拡大

2014年の貿易は、輸出が前年比5.9%増の524億9,400万ユーロ、輸入も同じく5.9%増の585億4,200万ユーロと輸出入ともに増加した。2012年から2年連続で前年比減だった貿易赤字は6.0%増の60億4,700万ユーロとなった。

輸出を品目別にみると、最大品目である機械・電気機器（構成比26.0%）は、全体で前年比9.5%増加した。電話機の9.8%増、電気制御機器の48.2%増が寄与した。輸送用機器（16.4%）は、全体では2.2%増だった。うち、45.8%を占める自動車部品が15.9%増だったものの、34.6%を占める乗用車が6.1%減となり、自動車部品の増加分を相殺した。ただし、乗用車輸出を台数ベースでみると、比較可能な2007年以降で最高を更新した。ルノー傘下のダチアとフォードの輸出台数は2013年とほぼ同じ0.4%増の約36万台となった。特にダチアの単価の安い小型車やスペイン向け「サンデロ」が割安感をアピールして、消費者を引き付けている。それが、輸出台数増にもかかわらず、金額ベースではマイナスになった一因だ。その他、鉱物性燃料（6.6%）は、全体で21.2%増だった。石油製品が前年比20.8%増、電気エネルギーが3倍となったことによる。穀物（3.8%）は0.3%増で、植物性生産品（5.8%）は2.8%増だった。2013年が豊作で、穀物、植物性生産品とともに、50%前後の伸び率を記録した。2014年も豊作により、輸出はさらに増

表2 ルーマニアの主要品目別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2013年		2014年		2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・電気機器	12,474	13,655	26.0	9.5	15,342	15,951	27.2	4.0
輸送用機器	8,435	8,622	16.4	2.2	4,298	5,012	8.6	16.6
自動車部品	3,409	3,952	7.5	15.9	1,977	2,278	3.9	15.2
乗用車	3,176	2,983	5.7	△6.1	897	1,078	1.8	20.2
金属	4,732	4,696	8.9	△0.8	5,797	6,307	10.8	8.8
繊維	3,733	3,887	7.4	4.1	3,633	3,946	6.7	8.6
鉱物性燃料	2,847	3,450	6.6	21.2	5,863	5,791	9.9	△1.2
植物性生産品	2,987	3,070	5.8	2.8	1,456	1,514	2.6	4.0
穀物	1,983	1,990	3.8	0.3	327	297	0.5	△9.3
プラスチック・ゴム製品	2,797	2,947	5.6	5.4	4,055	4,249	7.3	4.8
雑品	2,025	2,221	4.2	9.7	995	1,140	1.9	14.5
化学品	2,218	2,111	4.0	△4.8	5,797	5,984	10.2	3.2
合計（その他含む）	49,571	52,494	100.0	5.9	55,280	58,542	100.0	5.9

〔注〕EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕EU統計局

大したもの、前年比伸び率は小さい数値にとどまっている。

輸出を国・地域別でみると、EU28向けが全体の70.8%を占め、輸出額は前年比8.1%増の371億6,200万ユーロだった。中でも、ドイツ（構成比19.2%）とイタリア（11.7%）が牽引し、ユーロ圏（51.9%）は8.0%増となっ

た。ドイツ向けは全体で10.0%増だった。自動車部品が40.6%増、電気制御機器が44.5%増加したことによる。

イタリア向けは全体で9.4%増だった。2013年に首位だった履物が2.3%増にとどまつた一方で、最大品目となった葉巻たばこの60.4%増が寄与した。ポーランド（2.5%）向けは全体で10.2%増となった。自動車部品の12.8%増や電気ケーブルの22.8%増による。

オランダ（2.6%）向けは全体で11.5%減だった。その他船

舶の90.0%減とヒマワリの種49.9%減が響いた。EU28以外では、トルコ（4.4%）向けは全体で7.0%減だった。最大品目の石油製品が倍増した一方で、鉄くずの39.5%減や乗用車の37.9%減により石油製品の好調ぶりが相殺され、伸び率はマイナスとなった。米国（1.8%）向けは、米国経済の好調さに牽引され、鋼管が38.9%増、ペアリングの軸受けが33.3%増となり全体で17.3%増加した。

表3 ルーマニアの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2013年		2014年		2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU28	34,371	37,162	70.8	8.1	41,746	43,978	75.1	5.3
ユーロ圏	25,228	27,248	51.9	8.0	29,430	31,230	53.3	6.1
ドイツ	9,181	10,100	19.2	10.0	10,227	11,187	19.1	9.4
イタリア	5,619	6,146	11.7	9.4	6,000	6,263	10.7	4.4
フランス	3,353	3,561	6.8	6.2	3,201	3,320	5.7	3.7
スペイン	1,203	1,391	2.6	15.6	1,313	1,527	2.6	16.3
オランダ	1,536	1,359	2.6	△11.5	2,038	2,186	3.7	7.3
オーストリア	1,177	1,245	2.4	5.8	2,193	2,204	3.8	0.5
非ユーロ圏	9,144	9,914	18.9	8.4	12,317	12,748	21.8	3.5
ハンガリー	2,456	2,662	5.1	8.4	4,564	4,591	7.8	0.6
英国	2,024	2,149	4.1	6.2	1,244	1,328	2.3	6.8
ブルガリア	1,691	1,772	3.4	4.8	1,521	1,680	2.9	10.5
ポーランド	1,170	1,289	2.5	10.2	2,457	2,713	4.6	10.5
チェコ	985	1,180	2.2	19.8	1,504	1,601	2.7	6.5
トルコ	2,485	2,312	4.4	△7.0	1,860	1,939	3.3	4.2
ロシア	1,382	1,452	2.8	5.0	2,361	2,277	3.9	△3.6
米国	794	932	1.8	17.3	623	679	1.2	9.0
モルドバ	711	826	1.6	16.1	325	374	0.6	15.0
ウクライナ	964	614	1.2	△36.3	458	458	0.8	0.1
中国	498	567	1.1	13.7	1,965	2,347	4.0	19.4
韓国	460	310	0.6	△32.6	381	468	0.8	22.6
ブラジル	283	266	0.5	△6.1	326	229	0.4	△29.6
日本	231	210	0.4	△9.2	218	230	0.4	5.7
インド	230	181	0.3	△21.6	306	224	0.4	△26.9
カザフスタン	39	63	0.1	59.4	1,788	2,294	3.9	28.3
合計（その他含む）	49,571	52,494	100.0	5.9	55,280	58,542	100.0	5.9

〔注〕EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕EU統計局

■自動車部品と乗用車の輸入が大幅増

輸入を品目別にみると、最大品目である機械・電気機器（構成比27.2%）は、全体で前年比4.0%増となった。携帯電話の21.3%増加によるところが大きい。鉱物性燃料（9.9%）は、全体で1.2%減少した。61.7%を占める原油が前年比13.7%増だったものの、石油製品の6.7%減やガスの55.7%減などが影響した。輸送用機器（8.6%）は自動車部品の15.2%増、乗用車の20.2%増により全体で16.6%増加した。

輸入を国・地域別にみると、EU28が最大の輸入先で、全体の75.1%を占め、439億7,800万ユーロだった。うちドイツ（構成比19.1%）、イタリア（10.7%）、ハンガリー（7.8%）

の3カ国で全体の37.6%を占める。ドイツからは前年比66.3%増の自動車部品が牽引し全体で9.4%増となった。スペイン（2.6%）からの輸入は全体で16.3%増だった。自動車事業の量産に伴い、ディーゼルエンジンが73.6%増、ロータリーエンジンが41.4%増、乗用車が69.9%増となり、また加工用部品と推定される鉄道関連製品が16.6倍と拡大するなど、工業製品が増加したことによる。ポーランド（4.6%）からは最大品目の自動車部品が18.0%増加し、全体で10.5%増となった。EU域外では、中国（4.0%）からの輸入が全体で19.4%増となった。携帯電話の52.4%増が主因だ。カザフスタン（3.9%）は28.3%増となった。その98.0%を占める石油が28.3%増加したことによる。

■対内直接投資は前年比減

ルーマニア中央銀行によると2014年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比14.7%減の24億9,500万ユーロと、3年ぶりに減少に転じた。

対内直接投資について中央銀行および統計局は、国・地域別および業種別の詳細を発表していない（2015年5月現在）。2013年末時点の投資残高599億5,800万ユーロの内訳をみると、EU15からの投資額は全体の約80%を占め、上位3カ国はオランダ（構成比24.4%）、オーストリア（19.1%）、ドイツ（11.2%）の順である。

2014年発表の主な投資案件は次のとおり。ドイツの自動車大手ダイムラーは、セベシュにある子会社スター・トランスマッションの生産工場の拡張工事を完了した。

表4 ルーマニアの対内直接投資
<国際収支ベース、ネット、フロー>

（単位：100万ユーロ）

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
2,250	1,753	2,380	2,924	2,495

〔出所〕ルーマニア中央銀行

特にオートマチックトランスマッションの需要が高く、ドイツ国内で生産対応しきれない分をルーマニアで生産するためだ。同工場では、2013年下半期から5速オートマチックトランスマッション、2014年からはデュアルクラッチトランスマッションを生産しており、2016年からは最新の9速オートマチックトランスマッションを生産する予定。投資額は総額3億ユーロ（2014年4月）。トルコのガラス工業シシェジャムは8,500万ドルを投じて、子会社グラスコルプの自動車向けガラス製品の生産拠点をルーマニア南東部のブザウに建設し、稼働した（2014年11月）。シシェジャムにとって、ブザウは最大の自動車向けガラス生産拠点となった。近年自動車部品メーカーの立地は広がりをみせつつあり、ブザウもその一つといえる。米国の産業機械エマソンは既存工場があるクルージュ・ナポカに、6,000万ドルを投じて新工場の追加建設をし、さらに、地域生産技術センターならびに欧州システム統合センター機能を持つ施設も1,600万ドルを投じて建設すると発表した（2014年4月）。生産ならびにエンジニアリングサービスを強化し、欧州全般の顧客対応を行うためだ。オーストリアの石油大手OMV傘下のOMVペトロムは、シェアード・サービス・センターを2014年6月に開設した。他国も含めた同グループ向けにITや会計などのサービスを提供する。オーストリアの木材ホルツインダストリー・シュバイクホーファーはコヴァスナ県で新たな生産拠点の建設を開始した（2014年3月）。南アフリカ共和国（投資元は英国・マン島で登記）の不動産投資ニュー・ヨーロッパ・プロパティ・インベストメント（NEPI）は、ブカレストのショッピングセンターのプロメナーダ・モールを買収した（2014年10月）。投資額は1億4,800万ユーロ。同社は同年、これとは別に、ブカレストで別のショッピングセンターを投資額約4,400万ユーロで、クルージュ・ナポカでオフィスビルを投資額約1,300万ユーロで、トゥルグ・ジウでショッピングセ

表5 ルーマニアの主要対内直接投資案件（2014年1月～2015年5月）

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
自動車関連	ダイムラー	ドイツ	2014年4月	3億ユーロ	トランスマッションの生産工場を拡張
木材	ホルツインダストリー・シュバイクホーファー	オーストリア	2014年3月	1億5,000万ユーロ	コヴァスナ県で新たな生産拠点の建設を開始
不動産	ニュー・ヨーロッパ・プロパティ・インベストメント（NEPI）	英国・マン島	2014年10月	1億4,800万ユーロ	ブカレストのショッピングセンターを買収
ガラス工業	シシェジャム	トルコ	2014年11月	8,500万ドル	ブザウに自動車向けガラス製品の生産拠点を開設
産業機械	エマソン	米国	2014年4月	7,600万ドル	クルージュ・ナポカにある既存の生産拠点に新工場を追加建設。さらに地域生産技術センター等を建設
自動車部品	ドレクセルマイヤー	ドイツ	2015年4月	5,000万ユーロ	コドレアにある既存工場に新たな生産施設を開設
エネルギー	OMVペトロム	オーストリア	2014年6月	4,100万ユーロ	シェアード・サービス・センターを開設
農業	アーチャー・ダニエルズ・ミッズランド（ADM）	米国	2015年5月	n.a.	コンスタンツァ港の穀物ターミナル運営会社を買収

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表6 ルーマニアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)				
	2013年		2014年			2013年		2014年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率	
木材・木炭	177	157	74.6	△11.7	機械・電気機器	102	98	42.7	△3.7	
植物性生産品	22	18	8.7	△16.2	電気機器	62	56	24.3	△9.0	
穀物	22	17	8.2	△20.4	原子炉・ボイラー・機械類	40	42	18.3	4.4	
機械・電気機器	6	6	3.1	13.1	輸送用機器	50	47	20.2	△7.1	
電気機器	4	4	2.1	19.6	プラスチック・ゴム	29	32	13.7	7.8	
原子炉・ボイラー・機械類	2	2	1.0	1.7	ゴム	16	17	7.2	5.7	
繊維・衣料品	5	6	3.0	35.2	金属	18	29	12.8	62.7	
衣類	4	4	2.1	23.5	鉄鋼製品	7	14	6.2	116.6	
プラスチック・ゴム	6	5	2.3	△17.6	鉄鋼	3	6	2.5	89.9	
ゴム	3	3	1.6	7.9	金属製工具	1	2	0.7	9.5	
雑品	2	3	1.6	103.9	アルミニウム	0	1	0.3	118.5	
化学製品	2	3	1.4	24.0	光学機器・精密機器	5	11	4.6	93.9	
輸送用機器	2	3	1.3	10.9	化学製品	7	7	3.1	4.2	
合計(その他含む)	231	210	100.0	△9.2	合計(その他含む)	218	230	100.0	5.7	

〔出所〕EU統計局

ンターを投資額約2,800万ユーロで買収し、それぞれを開設している。

2015年の発表案件では、ドイツの自動車部品ドレクセルマイヤーは、5,000万ユーロを投資して、ブラショフ郊外のコドレアにある既存の生産工場の敷地内に、自動車内装品の生産施設を新たに開設した(2015年4月)。米国の穀物大手アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド(ADM)は、ルーマニアの傘下企業ノース・スター・シッピングとルーマニアのミンメンタルを買収することにより、2社が持つコンスタンツア港の穀物ターミナルを確保すると発表した(2015年5月)。

一方、撤退企業もある。ドイツのフォルクス・バンクは、ルーマニアにおける事業をルーマニアのトランシルバニア・バンクに譲渡すると発表した(2014年12月)。

■木材の輸出減で再び貿易赤字に

2014年の対日貿易は、輸出が前年比9.2%減の2億1,000万ユーロ、輸入は5.7%増の2億3,000万ユーロとなり、貿易収支は2,000万ユーロの赤字で、1989年の体制転換後、初めて黒字になった2013年から、再び赤字に転じた。

輸出を品目別にみると、木材・木炭(構成比74.6%)は11.7%減だった。植物性生産品(8.7%)はトウモロコシ

の79.0%減、小麦の48.3%減など、穀物の20.4%減により全体で16.2%減少した。

輸入を品目別にみると、機械・電気機器(42.7%)は、全体としては3.7%減となった。スイッチの8.4%減、ケーブル26.2%減による。輸送用機器(20.2%)は、全体で7.1%減だった。乗用車が9.6%増だったものの、自動車部品が23.0%減少したことが響いた。金属(12.8%)は鉄鋼製品が約2.2倍、鉄鋼が89.9%増となり、全体で62.7%増加した。

■進出済み日系製造業の拡大、目立つ

2014年の日系製造業は進出済み企業による投資拡大が目立った。ペアリングのNTNは2014年10月に既存の生産拠点に新たに1工場を開設した。矢崎総業は南部ウラツイ(2014年10月発表)と東部ブライラ(2014年12月発表)にそれぞれ自動車用ワイヤーハーネス生産工場を新たに開設すると発表した。ジェトロ・ブカレスト事務所の調査によると、2015年4月末時点の日系製造業は本社ベースで18社、現地法人ベースで25社、雇用人数は合計で3万人程度であった。前年は、それぞれ、19社、26社、約3万2,000人だった。製造業以外では日本通運が2014年11月、西部ティミショアラに支店を開設した。